

化粧品塗布中の感触の時間的変化を 評価する手法を開発

花王感覚科学研究所と花王スキンケア研究所は、化粧品の塗布中に人が感じる感触について、その時間的変化をアイトラッカーを活用して視線の移動により評価する手法を開発した。これによって感触の時間的変化の可視化が可能になり、塗布しているときから心地よさ、楽しさなどの使い心地に価値が感じられる化粧品の開発において有効な指標となり得るという。同研究内容は、日本認知心理学会第17回大会(2019年5月25～26日、京都)にて発表している。

化粧品では、保湿など、ときから高い価値や満足機能とともに、塗布しているときの感触などの使い心地も重要な価値だ。これまで主に飲食品の味などの時間的変化の評価法として用いられていた「Temporal Dominance of Sensation」(TDS法)などの官能評価を行うことが一般的で、塗布中の感触がどのように変化しているのかは詳細に評価されてこなかった。同社は、塗布している



方法として「視線」に着目。アイトラッカーを用いて、コンピュータ画面の感触に関する特性用語(「なめらか」「密着感」など)に評価者が視線を向けるだけで選択できるよう

「甘い」「すっぱい」などの特性が選択された割合の時間的変化を線グラフで示したもの(TDS曲線)として可視化される。このTDS法を化粧品塗布中の感触に適用しようとする「キー押し」で特性用語を選択すると、手に触れている手指の動作や感覚が阻害され、正しく時間的変化を評価できないことが懸念されるなど大きな課題があった。そこで今回は、手指の動作や感覚を阻害しない

セラミドがストレスで減少する メカニズムを解明

富士ファイルム

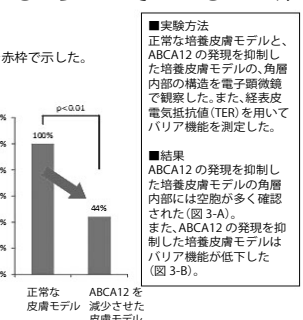
富士ファイルムは、肌のバリア機能を維持するうえで重要な役割を担うセラミドがストレスによって減少するメカニズムを解明した。

さらに、生薬として広く使われている「アセンヤクエキス」に、肌のバリア機能を改善する作用を見出した。具体的には、肌内部でセラミドを生み出す器官「ラメラボディ」の表面に存在するタンパク質「ABCA12」が、ストレスによって減少することや、「ABCA12」の減少により肌のバリア機能が低下することを見出した。また、生薬として広く使われているアセンヤクエキスに、「ABCA12」の発現を促す作用と、肌のバリア機能を改善する作用があることを発見した。

セラミドは、肌のバリア機能を維持するうえで重要な役割を担う。型セラミドを開発し、肌内部に存在するセラミド濃度を安定かつ高濃度に配合することによって減少するセラミド濃度を回復させることが、肌のバリア機能を改善する作用があることを発見した。

化を、6つの特性用語をめぐり、中期にあらためて評価した。クリーム状の処方では、中期以降から終わりにかけて密着感が出現した。塗布初期にあらめ、この手法により肌の塗布や楽しさを、使い心地に終わりかけて密着感の感触の時間的変化が、にも高い価値と満足を感じた。乳液状の再現実性も比較的高いことを確認した。

セラミドの原料である角質を、角層の直下にある顆粒層に存在する「ラメラボディ」に取り込む「ABC A12」の発現に、関与する遺伝子に異常がある。全身の皮膚が厚い板状の角層に覆われ、肌のバリア機能が不全が生じることが知られているが、正常な皮膚における「ABC A12」の重要性については、十分に研究が進んでいなかった。そこで同社は、ヒトの皮膚を再現した培養皮膚モデルを用いて実験を行った結果、ストレス負荷によって「ABC A12」が減少するとともに、肌のバ



結果、ABCA12の発現を抑制した培養皮膚モデルの角層内部には空隙が多く確認された(図3-A)。また、ABCA12の発現を抑制した培養皮膚モデルはバリア機能が低下した(図3-B)。

り、同社はこれまで、型セラミドを開発し、肌内部に存在するセラミド濃度を安定かつ高濃度に配合することによって減少するセラミド濃度を回復させることが、肌のバリア機能を改善する作用があることを発見した。今回の研究では、肌荒れを防ぐために、肌のバリア機能を改善する作用があることを発見した。

資生堂

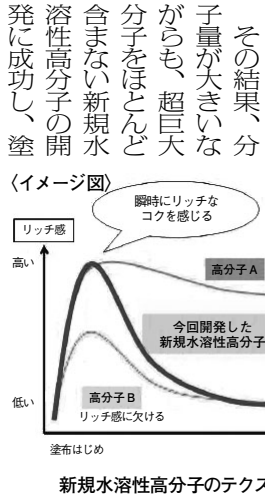
資生堂は、心地よい使用感触を実現する化粧品の研究開発を進める中、このほど、「塗布中にリッチなコクがありながらもスッと肌になじみ、塗布後の肌がべたつかない」という特徴をもった、これまでにない心地よい感触を実現する成分「新規水溶性高分子」の開発に成功した。

化粧品の大きく長い方がリッチなコクを出し、感触を調整することができる。しかし、従来の重合法では、高分子の重合速度をコントロールすることができず、高分子の長さや分子の重さを制御することができなかった。資生堂では、今回開発した新規水溶性高分子を配合することで最適な

り大きく長い方がリッチなコクを出し、感触を調整することができる。しかし、従来の重合法では、高分子の重合速度をコントロールすることができず、高分子の長さや分子の重さを制御することができなかった。資生堂では、今回開発した新規水溶性高分子を配合することで最適な

り大きく長い方がリッチなコクを出し、感触を調整することができる。しかし、従来の重合法では、高分子の重合速度をコントロールすることができず、高分子の長さや分子の重さを制御することができなかった。資生堂では、今回開発した新規水溶性高分子を配合することで最適な

り大きく長い方がリッチなコクを出し、感触を調整することができる。しかし、従来の重合法では、高分子の重合速度をコントロールすることができず、高分子の長さや分子の重さを制御することができなかった。資生堂では、今回開発した新規水溶性高分子を配合することで最適な



新規水溶性高分子のテクスチャーのイメージ

もう超巨大分子の存在をコントロールすることができず、高分子の長さや分子の重さを制御することができなかった。資生堂では、今回開発した新規水溶性高分子を配合することで最適な

もう超巨大分子の存在をコントロールすることができず、高分子の長さや分子の重さを制御することができなかった。資生堂では、今回開発した新規水溶性高分子を配合することで最適な

もう超巨大分子の存在をコントロールすることができず、高分子の長さや分子の重さを制御することができなかった。資生堂では、今回開発した新規水溶性高分子を配合することで最適な

もう超巨大分子の存在をコントロールすることができず、高分子の長さや分子の重さを制御することができなかった。資生堂では、今回開発した新規水溶性高分子を配合することで最適な

もう超巨大分子の存在をコントロールすることができず、高分子の長さや分子の重さを制御することができなかった。資生堂では、今回開発した新規水溶性高分子を配合することで最適な

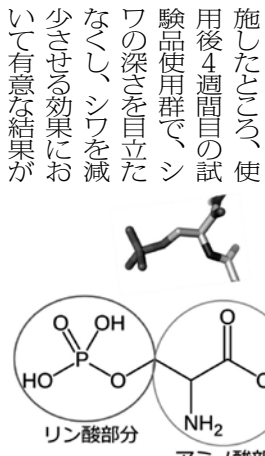
テクスチャーに調整したところ、目的とした感が確認された。今後、化粧水を、感性工学・脳科学を用いて塗布時の心ず、その使用によって脳品やサービスの開発に、地味さを定量的に評価し、快適度も上昇することを目指していく。

独自原料にコラーゲン産生促進や ファンケル シワ改善効果を確認

ファンケル

ファンケルは、このほど、独自原料「金のいぶき発芽米発酵液」に皮膚の「コラーゲン産生促進やシワ改善に有用な効果を新たに確認したことを受け、名古屋で開催された第118回日本皮膚科学会総会にて発表した。

同社は、「金のいぶき発芽米発酵液」の機能性「ホスホセリン」を確認。ト線維芽細胞に「ホスホセリン」を添加し、無添加の細胞との比較を実施している。この結果、ホ



ホスホセリンは、肌のバリア機能を改善する作用があることを確認した。今回の研究では、肌のバリア機能を改善する作用があることを確認した。

また、「金のいぶき発芽米発酵液」を配合した試験品を作成し、目尻にシワがある女性17人に対して、試験品を使用する側と使用しない側に分けて4週間使用してもらい、目尻シワの深さを測定した。結果、シワの深さが減少したことが確認された。

また、「金のいぶき発芽米発酵液」を配合した試験品を作成し、目尻にシワがある女性17人に対して、試験品を使用する側と使用しない側に分けて4週間使用してもらい、目尻シワの深さを測定した。結果、シワの深さが減少したことが確認された。

また、「金のいぶき発芽米発酵液」を配合した試験品を作成し、目尻にシワがある女性17人に対して、試験品を使用する側と使用しない側に分けて4週間使用してもらい、目尻シワの深さを測定した。結果、シワの深さが減少したことが確認された。

また、「金のいぶき発芽米発酵液」を配合した試験品を作成し、目尻にシワがある女性17人に対して、試験品を使用する側と使用しない側に分けて4週間使用してもらい、目尻シワの深さを測定した。結果、シワの深さが減少したことが確認された。

また、「金のいぶき発芽米発酵液」を配合した試験品を作成し、目尻にシワがある女性17人に対して、試験品を使用する側と使用しない側に分けて4週間使用してもらい、目尻シワの深さを測定した。結果、シワの深さが減少したことが確認された。

また、「金のいぶき発芽米発酵液」を配合した試験品を作成し、目尻にシワがある女性17人に対して、試験品を使用する側と使用しない側に分けて4週間使用してもらい、目尻シワの深さを測定した。結果、シワの深さが減少したことが確認された。

また、「金のいぶき発芽米発酵液」を配合した試験品を作成し、目尻にシワがある女性17人に対して、試験品を使用する側と使用しない側に分けて4週間使用してもらい、目尻シワの深さを測定した。結果、シワの深さが減少したことが確認された。